

課題 1

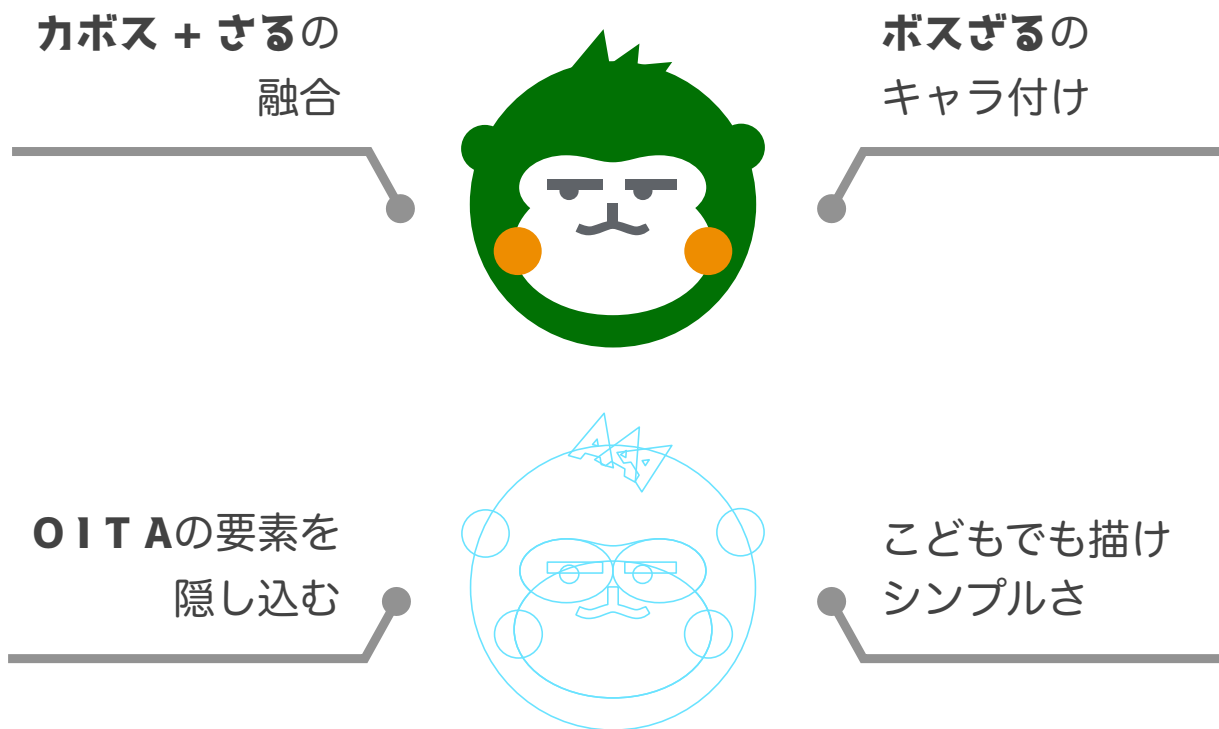
誰もが使いたくなるような
「大分市公式アプリ」のアイコンとアプリ内デザイン

渡邊 浩一郎

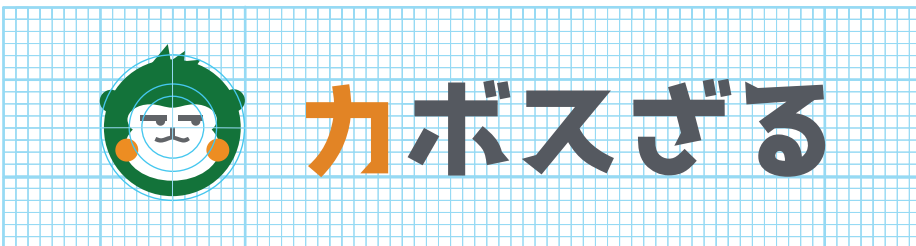
“ ユーザーが情報を簡単に引き出せる利便性と提供側の開発コストを抑える効率性をシンプルなアプリ設計で両立する ”



アプリのアイコンのコンセプト

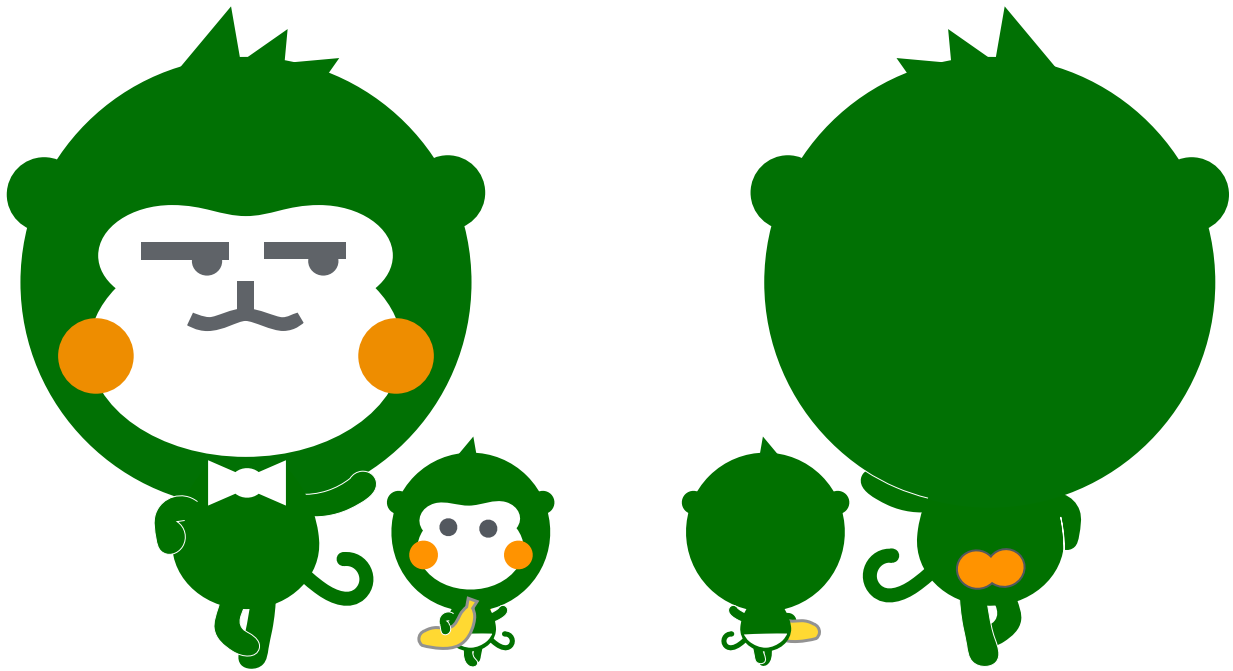


アプリのアイコン・ロゴ

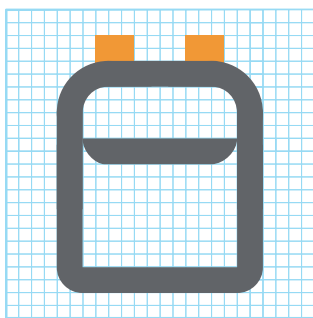


キャラクター

キャラクター化したアプリのアイコンがアプリ内のナビゲーターになる



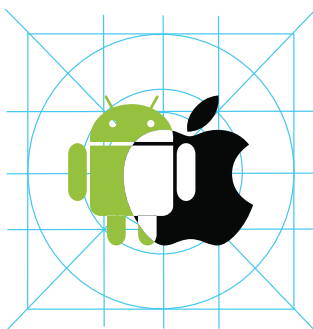
デザインガイドライン (概略)



アイコン

(Material Symbols に準拠 - fonts.google.com/icons)

- ❖ アイコンのグラフィックは基本的にライブエリアに収まるように作る。24 x 24 dp の場合、ライブエリアは20 x 20 dp
- ❖ ストロークの太さは 2 dp、角丸のサイズも 2 dp



コンポーネント

(各OSの標準仕様に準拠)

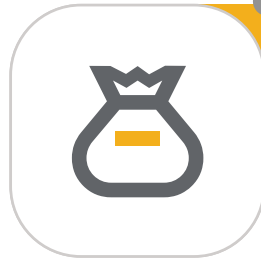
- ❖ 慣れ親しんだ一貫性のある操作性を提供できるように、システムで定義されたコンポーネントを使用
- ❖ システムフォントの使用を基本とする

アイコン

オリジナルを修正・追加したもの



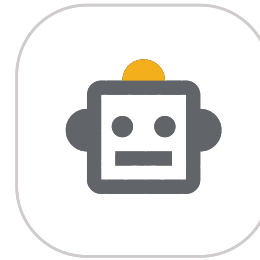
オンライン申請



ごみの出し方



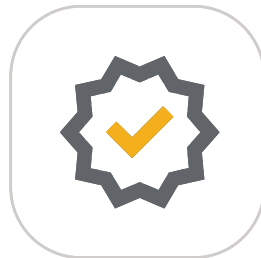
大分市Wi-Fi



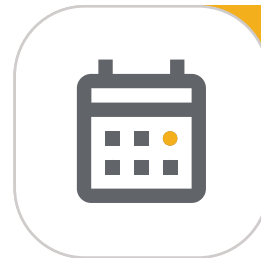
AIチャットボット



防災管理機能



新着情報



遊び・イベント



手当・助成



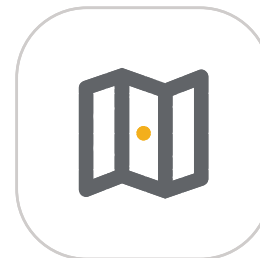
市報大分



クーポン



休日夜間当番医



おおいたマップ



ふるさと納税



SNS一覧



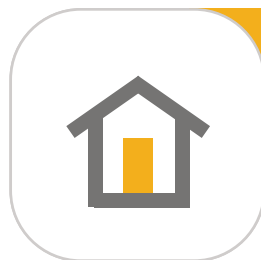
電話案内



母子モ



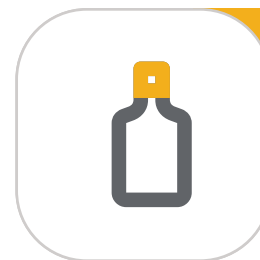
育児



ホーム



缶



ボトル

トップメニュー



表示 / 非表示の切り替え

リストのドラッグによるホームメニューの個別化

更新数の表示



検索結果



カテゴリをアイコンで強調

内容の要点をリスト表示で確認

情報をシェア



チャット



柔軟なチャット

カボスざるによる
ナビゲーション

音声入力を重視



ごみ回収日カレンダー



カレンダーへの
リンク

週間カレンダー
表示

チャット内の日付
とカレンダーとの
連携

アイコン、文字、
色による識別補助



イベント



画像による情報の補助

月間カレンダー表示

マップ、電話、クーポンとの連携



防災危機管理、設定



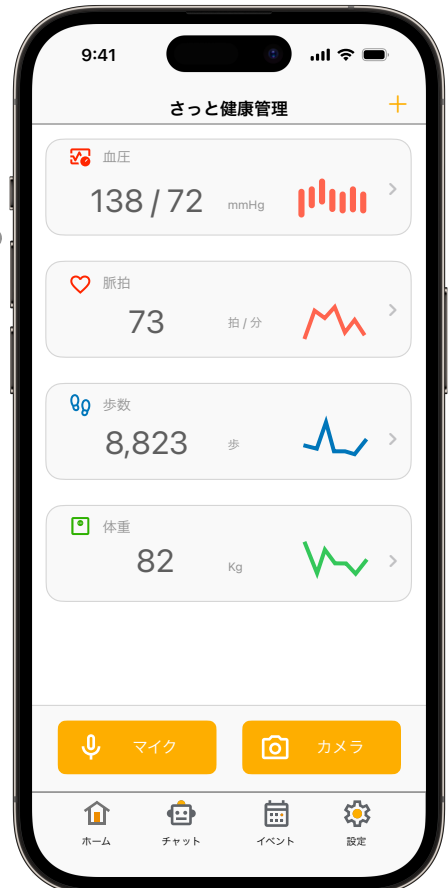
健康情報の一覧



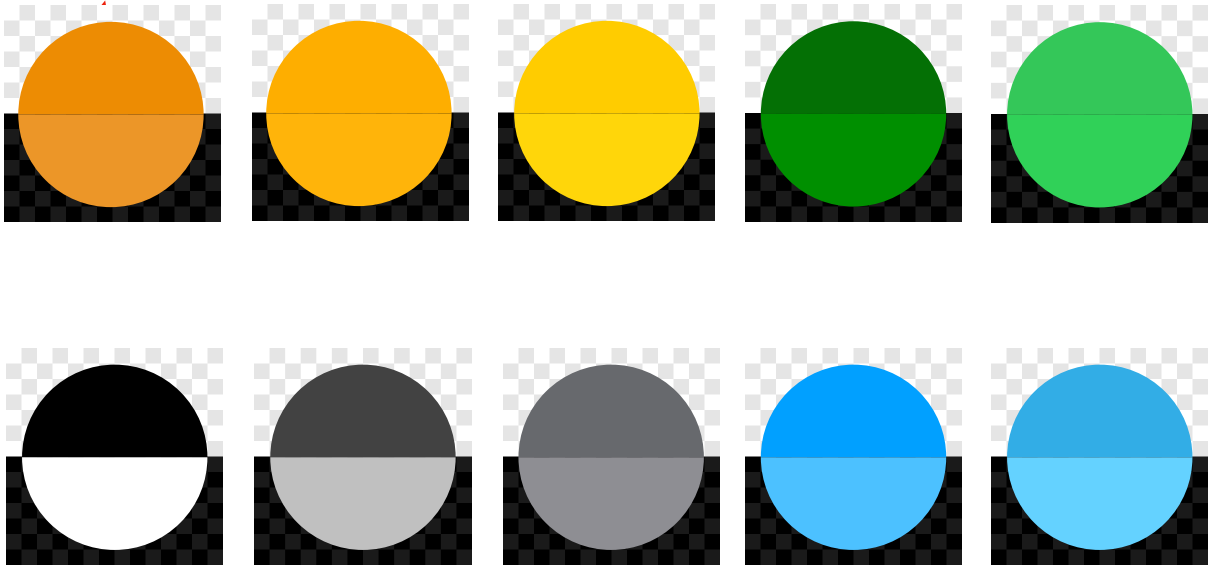
アイコンのキャラクター化

オフラインでも確認可能な情報の提供

音声やカメラによる入力の補助



カラー



フォント

ロゴ

カボスざる (あかずきんポップ)

システム

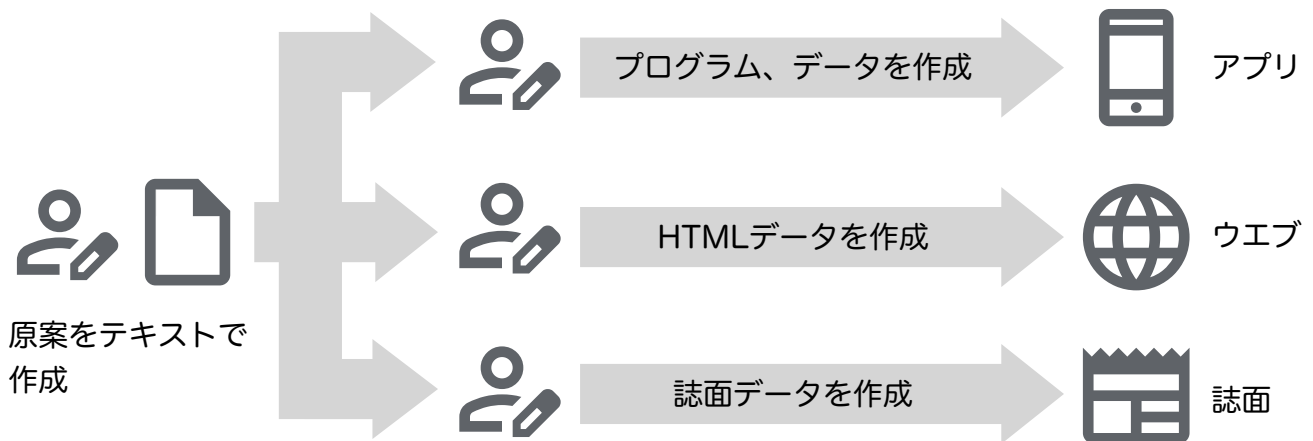
カボスざる (SF Pro, ヒラギノ角ゴシック)

カボスざる (Roboto, Noto San JP)

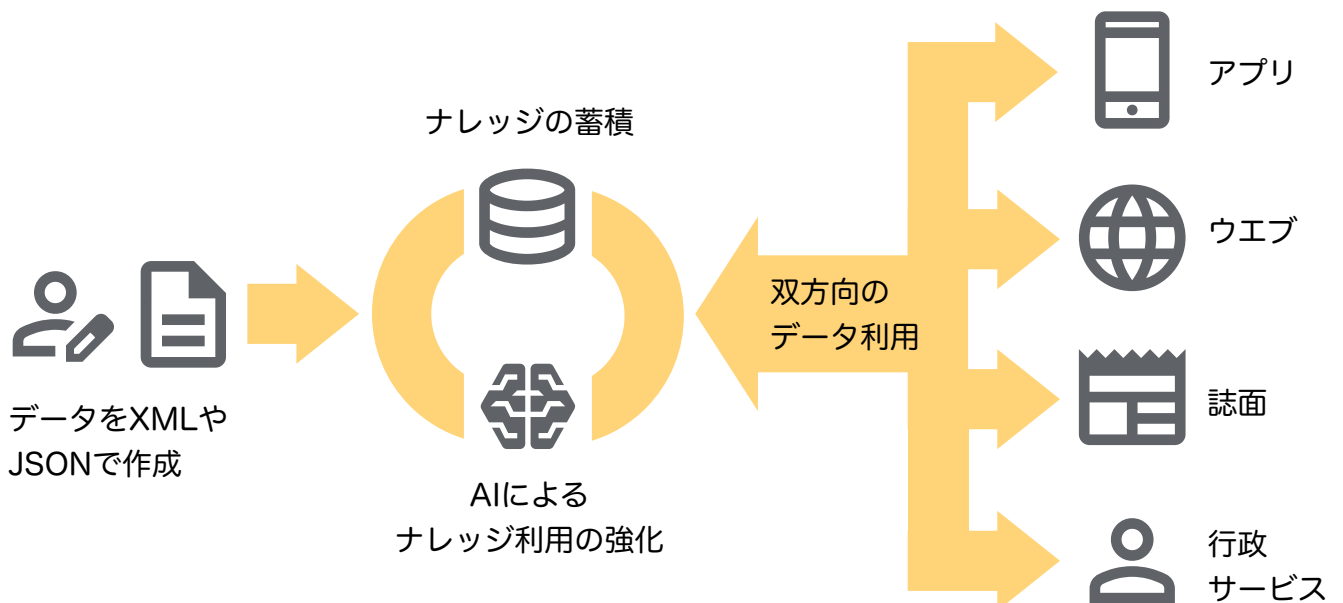
データを再デザインする

「誰もが使いたくなるような」UXを実現するためには、アプリのUI改善に加えて、データを拡張性と統一性を持った形式で作成・保存することが重要である。具体的には、タイトルや見出しを整えたスタイルに加え、作成部署や公開期間などのメタデータを含むXMLやJSON形式でデータを構築することが望ましい。このように統一された構造化データは、アプリ、ウェブ、紙媒体など異なるプラットフォームで活用でき、検索性の向上やHTML変換の効率化を実現する。また、AIとの親和性が高く、行政業務の効率化や市民への迅速な情報提供、さらには行政サービスの向上にも貢献する。

複数の作業が必要になるこれまでのデータの流れ



作業の省力化と双方向に利用可能なデータの流れ



アプリの機能を再デザインする

アプリの基本機能を見直す。

検索やAIチャット機能

トップ画面に検索バーを配置し、ユーザーがすぐに情報検索を始められるようにする。大分市に関するさまざまな情報を提供し、検索結果を視覚的にわかりやすいアイコンで分類することで、必要な情報を迅速に見つけやすくする。また、AIチャットシステムを改良し、簡潔かつ正確な回答を提供できるようにする。さらに、複雑な質問にも段階的に対応できる対話型インターフェースを導入し、利便性を向上する。

頻繁に更新される情報

「新着情報」や「イベント情報」などの頻繁に更新されるコンテンツを、アプリ内でリアルタイムに反映する仕組みを構築する。情報発信にはフィルター機能を導入し、ユーザーごとに必要な情報を選別して、アプリ内表示を個別化するとともに、プッシュ通知で興味のある情報を迅速に届ける。また、若者の参加を促進するために、「OITAえんむす部」や「ときめき出会いプロジェクト」との連携も検討する。

ネイティブアプリの特徴を考え、以下の機能を順次強化することを提案する。

防災危機対策

災害情報のプッシュ通知機能を導入し、緊急時に迅速な情報共有を実現する。GPSを利用して、ユーザーの現在地に応じた避難所や地域情報を提供。また、カメラ機能で災害状況の報告や市への要望を簡単に行えるようにする。収集した情報を生成AIで自動整理し、市の業務効率化とデータ蓄積を可能にする。さらに、災害時の準備リストやオフラインで利用できる連絡先情報の提供にも対応する。

健康管理機能

生活習慣病に関する血圧や体重といったデータを、高齢者がBluetoothを使わずに音声入力や写真撮影で手軽に記録できる機能を追加する。データは医療機関と共有され、災害時の健康管理にも活用できるようにする。記録したデータはiOSの「ヘルスケア」やAndroidの「Health Connect」と連携し、QRコードによって医療機関に提供することで、医療業務の効率化を図る。また、「いきいき健康大分市民21」との連携も検討する。